

## 2022年度収支決算案

2022年度収支決算案（審議資料2・添付『2022年度会計報告等及び2022年度監査報告』の1.収支決算案（1）～（4））について、承認を求めます。

## 2022年度会計報告等及び2022年度監査報告



一般社団法人 日本ネットワークインフォメーションセンター

自 2022年4月 1日  
至 2023年3月31日

## 2022年度会計報告等

### 1.収支決算案

(1) 貸借対照表	---	1
(2) 正味財産増減計算書	---	2
正味財産増減計算書内訳表	---	3
(3) 財務諸表((1)及び(2))に対する注記及び附属明細書	---	4
(4) 財産目録	---	8

2.公益目的支出計画実施報告書	---	9
-----------------	-----	---

## 2022年度監査報告

### 3.独立監査人の監査報告書

### 4.監事監査報告書

# 貸借対照表

2023年 3月31日現在

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	527,792,670	399,788,432	128,004,238
未収金	55,092,772	29,314,439	25,778,333
未収利息	3,635,053	3,303,897	331,156
未収税金	165,195	7,161,625	△ 6,996,430
前払金	2,034,311	1,619,987	414,324
預け金	13,985	32,696	△ 18,711
前払費用	7,196,444	6,070,186	1,126,258
貸倒引当金	0	△ 172,638	172,638
流動資産合計	595,930,430	447,118,624	148,811,806
2 固定資産			
(1) 特定資産			
国際会議参加支援資金	3,869,678	0	3,869,678
ICANN等積立資産	0	1,008,019	△ 1,008,019
減価償却引当資産	201,719,173	201,719,173	0
インターネット基盤整備基金資産	1,256,967,484	1,250,071,310	6,896,174
特定資産合計	1,462,556,335	1,452,798,502	9,757,833
(2) その他固定資産			
建物附属設備	15,641,763	16,888,521	△ 1,246,758
構築物	1,124,970	1,253,538	△ 128,568
什器備品	19,939,325	26,623,726	△ 6,684,401
ソフトウェア	48,593,306	35,327,810	13,265,496
電話加入権	61,843	1,385,136	△ 1,323,293
敷金	13,344,024	48,050,024	△ 34,706,000
関連会社株式	140,170,000	140,170,000	0
長期前払費用	1,446,093	3,158,196	△ 1,712,103
繰延税金資産	5,903,606	5,944,439	△ 40,833
その他の固定資産合計	246,224,930	278,801,390	△ 32,576,460
固定資産合計	1,708,781,265	1,731,599,892	△ 22,818,627
資産合計	2,304,711,695	2,178,718,516	125,993,179
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	43,987,888	16,316,600	27,671,288
預り金	855,201	793,600	61,601
賞与引当金	23,636,366	28,057,916	△ 4,421,550
未払消費税等	11,981,900	3,853,000	8,128,900
未払法人税等	5,106,600	561,000	4,545,600
流動負債合計	85,567,955	49,582,116	35,985,839
負債合計	85,567,955	49,582,116	35,985,839
III 正味財産の部			
1 指定正味財産			
指定正味財産合計	3,869,678	1,007,993	2,861,685
(うち特定資産への充当額)	(3,869,678)	(1,007,993)	2,861,685
2 一般正味財産	2,215,274,062	2,128,128,407	87,145,655
(うち特定資産への充当額)	(1,458,686,657)	(1,451,790,509)	(6,896,148)
正味財産合計	2,219,143,740	2,129,136,400	90,007,340
負債及び正味財産合計	2,304,711,695	2,178,718,516	125,993,179

(注) 実施事業資産は次のとおりです。

その他固定資産 什器備品 339,545

# 正味財産増減計算書

2022年4月1日から2023年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 特定資産運用益	(26,385,668)	(20,300,461)	(6,085,207)
減価償却引当資産受取利息	4,034	221,891	△ 217,857
インターネット基盤整備基金資産受取利息	26,381,624	20,078,560	6,303,064
ICANN等積立資産受取利息	10	10	0
② 受取会費	(88,300,000)	(90,500,000)	(△ 2,200,000)
正会員受取会費	84,200,000	86,200,000	△ 2,000,000
賛助会員受取会費	4,100,000	4,300,000	△ 200,000
③ 事業収益	(450,122,826)	(425,156,734)	(24,966,092)
インターネット基盤整備事業収益	89,758,522	61,246,010	28,512,512
IPアドレス事業収益	360,364,304	363,910,724	△ 3,546,420
④ 受取助成金	(212,000)	(67,000)	(145,000)
受取助成金	212,000	67,000	145,000
⑤ 受取寄付金	(2,138,315)	(0)	(2,138,315)
受取寄付金振替額	2,138,315	0	2,138,315
⑥ 雑収益	(44,732,712)	(44,657,893)	(74,819)
受取利息	6,528	5,948	580
受取配当金	41,550,000	38,780,000	2,770,000
雑収益	3,176,184	5,871,945	△ 2,695,761
経常収益計	611,891,521	580,682,088	31,209,433
(2) 経常費用			
① 事業費	(423,979,195)	(430,983,760)	(△ 7,004,565)
インターネット基盤整備事業費	146,642,918	144,623,284	2,019,634
IP事業費	277,336,277	286,360,476	△ 9,024,199
② 管理費	(92,871,807)	(94,466,967)	(△ 1,595,160)
管理費	92,871,807	94,466,967	△ 1,595,160
経常費用計	516,851,002	525,450,727	△ 8,599,725
評価損益等調整前当期経常増減額	95,040,519	55,231,361	39,809,158
特定資産評価損益等	6,896,174	6,305,761	590,413
評価損益等計	6,896,174	6,305,761	590,413
当期経常増減額	101,936,693	61,537,122	40,399,571
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固定資産除却損	1,323,293	12,425,529	△ 11,102,236
原状回復費用	0	16,170,000	△ 16,170,000
経常外費用計	1,323,293	28,595,529	△ 27,272,236
当期経常外増減額	△ 1,323,293	△ 28,595,529	27,272,236
税引前当期一般正味財産増減額	100,613,400	32,941,593	67,671,807
法人税、住民税及び事業税	13,426,912	1,319,160	12,107,752
法人税等調整額	40,833	1,827,629	△ 1,786,796
当期一般正味財産増減額	87,145,655	29,794,804	57,350,851
一般正味財産期首残高	2,128,128,407	2,098,333,603	29,794,804
一般正味財産期末残高	2,215,274,062	2,128,128,407	87,145,655
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	5,000,000	0	5,000,000
一般正味財産への振替額	△ 2,138,315	0	△ 2,138,315
当期指定正味財産増減額	2,861,685	0	2,861,685
指定正味財産期首残高	1,007,993	1,007,993	0
指定正味財産期末残高	3,869,678	1,007,993	2,861,685
III 正味財産期末残高	2,219,143,740	2,129,136,400	90,007,340

# 正味財産増減計算書内訳表

2022年 4月 1日から2023年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	実施事業等会計 (インターネット基盤整備事業)	その他会計 (IP事業)	法人会計	内部取引消去	合 計
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
特定資産運用益	(10)	(0)	(26,385,658)		(26,385,668)
減価償却引当資産受取利息	0	0	4,034		4,034
IN基盤整備基金資産受取利息	0	0	26,381,624		26,381,624
ICANN等積立資産受取利息	10	0	0		10
受取会費	(0)	(0)	(88,300,000)		(88,300,000)
正会員受取会費	0	0	84,200,000		84,200,000
賛助会員受取会費	0	0	4,100,000		4,100,000
事業収益	(89,758,522)	(360,364,304)	(0)		(450,122,826)
IN基盤整備事業収益	89,758,522	0	0		89,758,522
IP事業収益	0	360,364,304	0		360,364,304
受取助成金	(212,000)	0	0		(212,000)
受取助成金	212,000	0	0		212,000
受取寄付金	(2,138,315)	0	(0)		(2,138,315)
受取寄付金振替額	2,138,315	0	0		2,138,315
雑収益	(3,061,221)	(110,963)	(41,560,528)		(44,732,712)
受取利息	0	0	6,528		6,528
受取配当金	0	0	41,550,000		41,550,000
雑収益	3,061,221	110,963	4,000		3,176,184
経常収益計	95,170,068	360,475,267	156,246,186		611,891,521
(2) 経常費用					
事業費	(146,642,918)	(277,336,277)	(0)		(423,979,195)
給与手当	68,302,738	85,143,210	0		153,445,948
退職給付費用	3,916,499	4,705,440	0		8,621,939
賞与引当金繰入額	9,258,137	11,388,394	0		20,646,531
法定福利費	9,461,283	12,485,701	0		21,946,984
福利厚生費	304,754	367,865	0		672,619
会議費	401,535	15,354	0		416,889
交際費	427,423	210,264	0		637,687
旅費交通費	5,533,311	5,133,075	0		10,666,386
通信運搬費	6,125,624	8,771,462	0		14,897,086
減価償却費	3,785,309	18,796,303	0		22,581,612
消耗什器備品費	281,376	339,645	0		621,021
消耗品費	434,333	951,083	0		1,385,416
保守料	2,853,927	21,450,989	0		24,304,916
図書費	18,496	22,326	0		40,822
印刷製本費	1,621,426	1,939,995	0		3,561,421
光熱水料費	2,041,456	4,722,098	0		6,763,554
その他賃借料	6,385,592	10,166,568	0		16,552,160
不動産賃借料	6,460,157	7,797,961	0		14,258,118
機器賃借料	0	1,306,200	0		1,306,200
火災保険料	12,846	15,507	0		28,353
保険料	30,897	37,296	0		68,193
諸謝金	6,246,140	1,033,782	0		7,279,922
租税公課	5,886,439	22,968,150	0		28,854,589
支払負担金	788,326	45,674,664	0		46,462,990
研修費	343,007	490,621	0		833,628
業務委託費	5,158,319	10,854,721	0		16,013,040
支払手数料	385,988	333,250	0		719,238
雑費	177,580	214,353	0		391,933
管理費	(0)	(0)	(92,871,807)		(92,871,807)
給与手当	0	0	38,478,822		38,478,822
退職給付費用	0	0	2,381,344		2,381,344
賞与引当金繰入額	0	0	2,989,835		2,989,835
法定福利費	0	0	5,572,745		5,572,745
福利厚生費	0	0	205,131		205,131
懇親会費	0	0	209,000		209,000
会議費	0	0	1,224,446		1,224,446
交際費	0	0	41,932		41,932
旅費交通費	0	0	2,035,123		2,035,123
通信運搬費	0	0	2,959,230		2,959,230
減価償却費	0	0	2,353,023		2,353,023
消耗什器備品費	0	0	189,393		189,393
消耗品費	0	0	260,485		260,485
保守料	0	0	1,920,976		1,920,976
図書費	0	0	12,450		12,450
印刷製本費	0	0	1,766,295		1,766,295
光熱水料費	0	0	1,374,102		1,374,102
その他賃借料	0	0	1,436,461		1,436,461
不動産賃借料	0	0	4,348,326		4,348,326
火災保険料	0	0	8,647		8,647
保険料	0	0	20,797		20,797
諸謝金	0	0	15,910,010		15,910,010
損害保険料	0	0	269,110		269,110
租税公課	0	0	4,126,425		4,126,425
支払負担金	0	0	750,622		750,622
研修費	0	0	278,026		278,026
業務委託費	0	0	1,455,855		1,455,855
支払手数料	0	0	173,667		173,667
雑費	0	0	119,529		119,529
経常費用計	146,642,918	277,336,277	92,871,807		516,851,002
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 51,472,850	83,138,990	63,374,379		95,040,519
特定資産評価損益等	0	0	6,896,174		6,896,174
評価損益等計	0	0	6,896,174		6,896,174
当期経常増減額	△ 51,472,850	83,138,990	70,270,553		101,936,693
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計					
(2) 経常外費用					
固定資産除却損	0	0	1,323,293		1,323,293
経常外費用計	0	0	1,323,293		1,323,293
当期経常外増減額	0	0	△ 1,323,293		△ 1,323,293
税引前当期一般正味財産増減額	△ 51,472,850	83,138,990	68,947,260		100,613,400
法人税、住民税及び事業税	0	13,356,912	70,000		13,426,912
法人税等調整額	0	40,833	0		40,833
当期一般正味財産増減額	△ 51,472,850	69,741,245	68,877,260		77,145,655
一般正味財産期首残高	△ 39,920,489	465,323,846	1,702,725,050		2,128,128,407
一般正味財産期末残高	△ 91,393,339	535,065,091	1,771,602,310		2,215,274,062
II 指定正味財産増減の部					
受取寄付金	(2,861,685)	(0)	(0)		(2,861,685)
受取寄付金	5,000,000	0	0		5,000,000
一般正味財産への振替額	△ 2,138,315	0	0		△ 2,138,315
当期指定正味財産増減額	2,861,685	0	0		2,861,685
指定正味財産期首残高	1,007,993	0	0		1,007,993
指定正味財産期末残高	3,869,678	0	0		3,869,678
III 正味財産期末残高	△ 87,523,661	535,065,091	1,771,602,310		2,219,143,740

## 財務諸表に対する注記

「公益法人会計基準」(平成20年4月11日 平成21年10月16日改正 内閣府公益認定等委員会)を採用している。

### 1 重要な会計方針

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

- ①満期保有目的の債券…該当なし。
- ②子会社株式及び関連会社株式…移動平均法による原価法によっている。
- ③満期保有目的の債券並びに子会社株式及び関連会社株式以外の有価証券
  - ・時価のあるもの…期末日の市場価格等に基づく時価法によっている。
  - ・時価のないもの…該当なし。

#### (2) 固定資産の減価償却の方法

##### ①有形固定資産

法人税法に定める方法によっている。なお主な耐用年数は以下のとおり。

- ・1998年(平成10年)4月1日以降に取得した建物と同一性を有する建物附属設備並びに2016年(平成28年)4月1日以降に取得したその他の建物附属設備及び構築物…定額法(10年～15年)
- ・什器備品…定率法(2年～15年)

##### ②無形固定資産

・ソフトウェアの減価償却は5年間の均等償却によっている。

#### (3) 外貨建有価証券の本邦通貨への換算

外貨建有価証券は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は為替差損益として別掲せず、評価損益に含めて処理している。

#### (4) 引当金の計上基準

##### ①賞与引当金

職員に対する賞与の支給に備えるため、賞与支給見込額の内、当期に帰属する額を計上している。

##### ②貸倒引当金

債権について、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上している。

#### (5) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっている。

### 2 特定資産の増減額及び残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
国際会議参加支援資金 普通預金		5,000,000	1,130,322	3,869,678
小計	0	5,000,000	1,130,322	3,869,678
ICANN等積立資産 普通預金	1,008,019	10	1,008,029	0
小計	1,008,019	10	1,008,029	0
減価償却引当資産 定期預金	201,719,173			201,719,173
小計	201,719,173	0	0	201,719,173
インターネット基盤整備基金資産 外国債券・仕組債 定期預金 普通預金	965,529,181 150,000,000 134,542,129	106,896,174		1,072,425,355 150,000,000 34,542,129
小計	1,250,071,310	106,896,174	100,000,000	1,256,967,484
合計	1,452,798,502	111,896,184	102,138,351	1,462,556,335

### 3 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
国際会議参加支援資産	3,869,678	(3,869,678)	(0)	0
減価償却引当資産	201,719,173	0	(201,719,173)	0
インターネット基盤整備基金資産	1,256,967,484	0	(1,256,967,484)	0
合 計	1,462,556,335	3,869,678	1,458,686,657	0

### 4 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物附属設備	17,809,208	2,167,445	15,641,763
構築物	1,285,680	160,710	1,124,970
什器備品	194,150,618	174,211,293	19,939,325
ソフトウェア	367,656,824	319,063,518	48,593,306
合 計	580,902,330	495,602,966	85,299,364

### 5 法人の採用する退職給付制度

確定拠出型の制度として、確定拠出年金制度を設けている。

### 6 事業費及び管理費の形態別分類

事業費及び管理費の形態別分類は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	事業費			管理費	合計
	IN基盤整備事業費	IP事業費	事業費合計		
給料手当	68,302,738	85,143,210	153,445,948	38,478,822	191,924,770
退職給付費用	3,916,499	4,705,440	8,621,939	2,381,344	11,003,283
賞与引当金繰入額	9,258,137	11,388,394	20,646,531	2,989,835	23,636,366
法定福利費	9,461,283	12,485,701	21,946,984	5,572,745	27,519,729
福利厚生費	304,754	367,865	672,619	205,131	877,750
懇親会費	0	0	0	209,000	209,000
会議費	401,535	15,354	416,889	1,224,446	1,641,335
交際費	427,423	210,264	637,687	41,932	679,619
旅費交通費	5,533,311	5,133,075	10,666,386	2,035,123	12,701,509
通信運搬費	6,125,624	8,771,462	14,897,086	2,959,230	17,856,316
減価償却費	3,785,309	18,796,303	22,581,612	2,353,023	24,934,635
消耗什器備品費	281,376	339,645	621,021	189,393	810,414
消耗品費	434,333	951,083	1,385,416	260,485	1,645,901
保守料	2,853,927	21,450,989	24,304,916	1,920,976	26,225,892
図書費	18,496	22,326	40,822	12,450	53,272
印刷製本費	1,621,426	1,939,995	3,561,421	1,766,295	5,327,716
光熱水料費	2,041,456	4,722,098	6,763,554	1,374,102	8,137,656
その他賃借料	6,385,592	10,166,568	16,552,160	1,436,461	17,988,621
不動産賃借料	6,460,157	7,797,961	14,258,118	4,348,326	18,606,444
機器賃借料	0	1,306,200	1,306,200	0	1,306,200
火災保険料	12,846	15,507	28,353	8,647	37,000
保険料	30,897	37,296	68,193	20,797	88,990
諸謝金	6,246,140	1,033,782	7,279,922	15,910,010	23,189,932
損害保険料	0	0	0	269,110	269,110
租税公課	5,886,439	22,968,150	28,854,589	4,126,425	32,981,014
支払負担金	788,326	45,674,664	46,462,990	750,622	47,213,612
研修費	343,007	490,621	833,628	278,026	1,111,654
業務委託費	5,158,319	10,854,721	16,013,040	1,455,855	17,468,895
支払手数料	385,988	333,250	719,238	173,667	892,905
雑費	177,580	214,353	391,933	119,529	511,462
合 計	146,642,918	277,336,277	423,979,195	92,871,807	516,851,002

7 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(単位:円)

未払事業税	1,207,973
賞与引当金	4,483,880
減価償却超過額	211,753
繰延税金資産合計	5,903,606

8 資産除去債務に関する注記

当法人は、オフィスの不動産賃借契約に基づき、オフィスの退去時における原状回復に係る債務を有しているが、当該債務に関連する賃借資産の使用期間が明確でなく、将来オフィスを移転する予定もないことから、資産除去債務を合理的に見積ることができない。そのため、当該債務に見合う資産除去債務を計上していない。

9 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当法人は、法人運営の財源の一部を運用益によって賄うため、債券、デリバティブ取引を組み込んだ複合金融商品により資産運用する。

当法人が利用するデリバティブ取引は、デリバティブを組み込んだ複合金融商品(仕組債、仕組預金)のみである。なお、投機目的のデリバティブ取引は行わない方針である。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

インターネット基盤整備基金資産のうち投資有価証券は、債券、デリバティブ取引を組み込んだ債券(仕組債)であり、発行体の信用リスク、市場リスク(金利の変動リスク、為替の変動リスク及び市場価格の変動リスク)にさらされている。

(3) 金融商品のリスクに係る管理体制

①資産運用規程に基づく取引

金融商品の取引は、当法人の資産運用規程に基づき行う。

②信用リスクの管理

債券及び仕組債については、発行体の信用情報や時価の状況を定期的に把握し、理事会に報告する。

10 指定正味財産から一般正味財産への振替額

(単位:円)

内容	金額
経常収益への振替額	2,138,315
国際会議参加支援事業費計上による振替額	1,130,322
ICANN等事業費計上による振替額	1,007,993

\* ICANN等積立資金については、当年度、全て目的通りに使用した。

一方で、当年度、若手技術者等の国際会議への参加を支援する用途として寄付の受け入れを行い、その一部について当該事業へ充当した。

受入寄付金の残額については、国際会議参加支援資金として、特定資産への設定を行った。



## 附属明細書

### 1 特定資産の明細

財務諸表の注記2「特定資産の増減額及び残高」にて記載している。

### 2 引当金の明細

(単位:円)

名 称	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	28,057,916	23,636,366	28,057,916		23,636,366
貸倒引当金	172,638	0	172,638		0

# 財産目録

2023年 3月31日現在

(単位:円)

科目	金額		
<b>I 資産の部</b>			
<b>1. 流動資産</b>			
現金預金	527,792,670		
現金 現金手許有高	26,344		
普通預金 三菱UFJ銀行神保町支店	104,203,004		
普通預金 三菱UFJ銀行神保町支店	58,004,350		
普通預金 みずほ銀行東京中央支店	365,558,024		
普通預金 三井住友銀行東京営業部	948		
未収金	55,092,772		
未収利息	3,635,053		
インターネット基盤整備基金資産未収利息	3,635,053		
未収税金	165,195		
前払金 事務局家賃/IX費用等/会計ソフト使用料	2,034,311		
預け金 セミナー収入paypal入金	13,985		
前払費用 サーバ等の保守料	7,196,444		
流動資産合計		595,930,430	
<b>2. 固定資産</b>			
(1) 特定資産			
国際会議参加支援資金	3,869,678		
普通預金: 三菱UFJ銀行神保町支店	3,869,678		
減価償却引当資産	201,719,173		
定期預金: 三菱UFJ銀行神保町支店	201,719,173		
インターネット基盤整備基金資産	1,256,967,484		
外貨建債券・仕組債	1,072,425,355		
定期預金: 三菱UFJ銀行神保町支店	150,000,000		
普通預金: 三井住友銀行東京営業部	34,542,129		
特定資産合計	1,462,556,335		
(2) その他固定資産			
建物附属設備	15,641,763		
構築物	1,124,970		
什器備品	19,939,325		
ソフトウェア	48,593,306		
電話加入権	61,843		
敷金	13,344,024		
関連会社株式 (株)日本レジストリサービス 株式 1385株	140,170,000		
長期前払費用 サーバ等の保守料	1,446,093		
繰延税金資産	5,903,606		
その他の固定資産合計	246,224,930		
固定資産合計		1,708,781,265	
資産合計			2,304,711,695
<b>II 負債の部</b>			
<b>1. 流動負債</b>			
未払金	43,987,888		
預り金 住民税等	855,201		
賞与引当金	23,636,366		
未払消費税等	11,981,900		
未払法人税等	5,106,600		
流動負債合計		85,567,955	
<b>2. 固定負債</b>			
固定負債合計		0	
負債合計			85,567,955
<b>正味財産</b>			2,219,143,740

## 公益目的支出計画実施報告書

### 【2022年度(2022年4月1日から2023年3月31日まで)の概要】

1.	公益目的財産額	2,588,456,331 円
2.	当該事業年度の公益目的収支差額((1)+(2)-(3))	797,458,599 円
	(1) 前事業年度末日の公益目的収支差額	745,985,749 円
	(2) 当該事業年度の公益目的支出の額	146,642,918 円
	(3) 当該事業年度の実施事業収入の額	95,170,068 円
3.	当該事業年度末日の公益目的財産残額	1,790,997,732 円
4.	2の欄に記載した額が計画に記載した見込額と異なる場合、その概要及び理由 計画作成時点の見込に比べ、当該事業における収入が上回ったため、当該事業年度末日の公益目的収支差額が計画における見込額を下回ったものである。なお、公益目的支出計画の残りの実施期間および今後の当該事業の実施規模を鑑みて、実施期間は据え置いている。	

### 【公益目的支出計画の状況】

公益目的支出計画の 完了予定事業年度の末日	(1) 計画上の完了見込み	2036年3月31日
	(2) (1)より早まる見込みの場合	

	前事業年度		当該事業年度		翌事業年度
	計画	実績	計画	実績	計画
公益目的財産額	2,588,456,331 円	2,588,456,331 円	2,588,456,331 円	2,588,456,331 円	2,588,456,331 円
公益目的収支差額	1,011,309,903 円	745,985,749 円	1,126,823,837 円	797,458,599 円	1,242,337,771 円
公益目的支出の額	145,313,934 円	144,623,284 円	145,313,934 円	146,642,918 円	145,313,934 円
実施事業収入の額	29,800,000 円	66,538,298 円	29,800,000 円	95,170,068 円	29,800,000 円
公益目的財産残額	1,577,146,428 円	1,842,470,582 円	1,461,632,494 円	1,790,997,732 円	1,346,118,560 円

## 独立監査人の監査報告書

2023年4月26日

一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター  
理事長 江崎 浩 殿

江田寛 公認会計士事務所

神奈川県横浜市

公認会計士

白土将志 公認会計士事務所

東京都千代田区

公認会計士

### 監査意見

私たちは、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第124条第2項第1号の規定に基づく監査に準じて、一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンターの2022年4月1日から2023年3月31日までの2022事業年度の貸借対照表、損益計算書（公益認定等ガイドラインII-4の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書について監査し、あわせて、正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

私たちは、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

私たちは、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私たちの責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。私は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私たちは、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。理事者の責任は、その他

の記載内容を作成し開示することにある。また、監事の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

私たちの財務諸表等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、私たちはその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表等の監査における私たちの責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表等又は私たちが監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

私たちは、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、私が報告すべき事項はない。

### 財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続組織の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続組織に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

### 財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 理事者が継続組織を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続組織の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続組織の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項

が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続組織として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

#### 利害関係

法人と私たちとの間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

# 監事監査報告書

一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター  
理事長 江崎 浩 殿

一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター

監事 青木 邦哲 印

2023年4月26日

監事 高田 寛 印

2023年4月26日

監事 高宮 展樹 印

2023年4月26日

私たち監事は、2022年4月1日から2023年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行に関して、本監査報告を作成し、以下の通り報告いたします。

## 1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行の状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、法人事業所において業務及び財産の状況並びに公益目的支出計画の実施の状況を調査いたしました。さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行いました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算関係書類（貸借対照表、正味財産増減計算書及びこれらの附属明細書並びに財産目録）並びに公益目的支出計画実施報告書について検討いたしました。

## 2 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- 事業報告及びその他附属明細書は、法令及び定款に従い法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

### (2) 計算関係書類の監査結果

計算関係書類は、法人の財産及び正味財産増減の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

- 公益目的支出計画実施報告書は、法令及び定款に従い法人の公益目的支出計画の実施の状況を正しく示しているものと認めます。

以上